

前回の2.2倍402件、12月に最終審査

若き挑戦者 急増

GIAエントリー



GUNMA
INNOVATION
AWARD
2018

6回目を迎えた起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーションアワード(GIA)2018」のエントリーが23日までに締め切られた。エントリー総数は前回の約2.2倍となる402件で過去最多を更新。高校生が約3倍、大学生・専門学校生が2倍など若い挑戦者が大幅に増えた。昨年のGIAで高校生が初めて大賞を獲得したことも影響しているとみられる。

内訳は、起業や第二創業を目指す「ビジネスプラン部門」のうち、高校生の部が前年比約3倍の295件、大学生・専門学校生の部が同2倍の40件、一般の部が38件だった。創業5年未満の起業家が対象の「スタートアップ部門」は17件、創業5年以上の事業者を対象にした「イノベーション部門」は12件だった。

多彩な事業プランがそろった。福祉や健康、環境をキーワードにした案も見られ、今回からの新たなキャラクター「群を抜け」にふさわしいエントリーとなった。

プロジェクトを支援する金融機関「フィナンシャルサポーター」が10月上旬までに書類審査を実施。通過者が臨む2次プレゼンテーション審査(同月28日、上毛新聞社)で絞られた各部門・部の原則3組、計15組は、ファイナルステージ(12月1日、ヤマダグリーンホール前橋)の公開最終審査に挑む。大賞、入賞に輝い

たファイナリストには来春、米国・シリコンバレーへの研修ツアーが特典として与えられる。

GIAは上毛新聞社が主

催。ジーンズの田中仁社長、コシダカホールディングスの腰高博社長、相模屋食料の鳥越淳司社長、オープンハウスの荒井正昭社長らでつくる実行委員会とパートナー企業、フィナンシャルサポーターが中心となり実施している。